

I 今期の調査概要

第1回調査：令和3年8月5日

初回の調査として、動物園の社会的役割や本市動物公園における課題について説明を受けるとともに、千葉市動物公園リスタート構想の概要と進捗について、当局のこれまでの取組を聴取した。

○調査概要

1. 動物園の社会的役割

- ・社会的教育施設としての動物園には、種の保存、教育・環境教育、調査・研究、レクリエーションの4つ役割があるとされており、これらの役割に対して偏りなく事業を行っていくことが肝要である。
- ・国内の動物園数や、再整備・再生計画への動きなど、日本の動物園の現状を説明。

2. 動物園における一般的な課題と本市動物園の課題

- ・動物園における一般的な課題は、本市の課題としても共通しており、展示動物の持続的確保、認定動物園制度の付加価値化の可能性、さらなるSDGsへの対応の必要性、公立動物園の入園料金の設定が挙げられる。

3. 千葉市動物公園リスタート構想について

(1) 千葉市動物公園リスタート構想の概要と取組状況について

基本理念：「市民に身近な動物公園（私たちの動物園）」「都市の活性化につなげる集客観光施設」として再生を図る。

基本方針：独自性があり、非日常感に包まれた空間で、動物を通して楽しく遊びながら学べ、自然・生命の大切さがわかる、新しい発見と驚きと感動に出会えるような動物園とする。

取組目標：1 特徴ある動物展示の実現
2 教育・普及活動の充実
3 国際動物園への脱皮
4 集客力の向上
5 持続可能な運営体制の構築

効果

・平成28年度のライオン舎オープン、令和2年度のチーター・ハイエナ舎オープンに入園者数が増加するなど、新展示場がオープンすると大幅な来園者増となっているため、今後も3～4年ごとの絶え間ないリニューアルを続けるとともに、谷間となる期間には新たな魅力向上策を展開し、リニューアル効果を持続させる

ことが必要。

- ・調査研究事業は、アカデミア・アニマリウムを立ち上げた令和2年度は研究課題数が大きく増加し、リスタート構想策定後、外部との共同研究における連携団体も研究機関のみならず、大学、高専など、幅が広がってきている。

- ・平成24年度、平成29年度、令和3年度に実施した来園者アンケートより、全体的な満足度が上昇傾向にある。令和3年度のみ設問である、魅力ある施設に変わってきていると感じるかの設問には、8割以上が大いに感じる、感じると回答しており、様々な取組が満足度の向上につながっている。

4. 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・令和2年4、5月に臨時休園を行った。

- ・園内滞在者が過密にならないよう入園制限を行う体制を整えるほか、チーターランやライオンミートキャッチャーなど人気の高いイベントも中止を余儀なくされており、再開のめどが立っていない。対面動物解説に代わり、YouTubeによる解説動画の視聴を実験的に開始している。

5. リスタート構想を進める上での課題と将来ビジョンについて

- ・年間来園者100万人の達成に向けた継続的な再整備の推進と魅力向上策の実施、ニューノーマルに対応した新たな集客施策、継続的な動物の飼養等の課題がある。

- ・「驚きと感動」「憩いと癒し」「学び」の場としての高度化による、より愛され、親しまれる、市民生活に根付いた（共創・協創・交流）施設というビジョンの達成のため、動物園としての4つの社会的存在意義の追求、公園としての機能整備に取り組む。

第2回調査：令和3年11月2日

市内視察：千葉市動物公園

○視察先及び視察概要

1 千葉市動物公園

(1) 千葉市動物公園リスタート構想における重点取組について

- ・評価の高い他市動物園の特徴分析、及び本市動物公園リスタート構想における重点取組の進捗と今後の展望について調査
- ・肉食動物の導入等リスタート構想の整備状況を現地視察

○調査概要

1. 比較4園の特徴と分析

- ・伊豆アニマルキングダム、神戸市立王子動物園、高知県立のいち動物園、大牟田市動物園の4園について、展示やサービスの特徴等を分析した。

2. 重点取組の進捗と今後の展望について

(1) 肉食動物の導入…ライオン、チーター等の導入

特徴ある動物展示の実現に向けて、動物の持つ能力、習性、生活をより引き出す展示場として平原ゾーンの整備を行い、令和3年5月にフルオープンした。

(2) ウェルカム動物の配置

入口付近にウェルカム動物を配置し、エントランスから動物園らしさを演出する取組だが、隣接した自然環境豊かな大池の利活用と合わせた整備を行う必要があることなどから、再検証を行う方針であり、植栽や花壇などで演出を行う案も検討している。

(3) モノレールからの存在感アップ

モノレールという高所から眺望できる特異な環境を生かせるよう、園内環境の整備を検討している。

また、モノレール駅からのイメージアップを図るために、駅コンコースの天井部の塗り替えを行うことなどについて、交通事業者と協議を進めている。

(4) お客様目線でのおもてなし…また来ようと思っただけのおもてなし

公式アプリや年間パスポート利用者への特典などによるリピーター醸成策、トイレ改修や飲食サービスの拡充などによる滞在環境の向上を行っている。

(5) 動物ワールドの創出…動物展示だけではなく動物に関わる様々な情報を集め、発信

さまざまな学校、研究・学術団体、企業との連携も含め、包括的な調査研究、教育普及活動を「アカデミア・アニマリウム」と称し、活動を推進している。

(6) 「種の保存」に世界レベルで貢献

昨年、繁殖を目的に海外から導入したチーターに、令和3年6月、6頭の子ども

が誕生した。

○園内視察の様子



ライオン舎
アマゾンほしい物リストの寄附による
ミートキャッチャーが設置されている。



平原ゾーンではエキゾチック感のある植物を
採用し、乾燥した草原風景を演出。

調査報告書を提出：令和4年3月16日

正副委員長で都市局長及び動物公園園長を訪問。委員の所感を記載した調査報告書を提出。



II 調査の過程での委員の主な意見

- ・動物の権利と動物の福祉（アニマルウェルフェアとアニマルライツ）という考え方が、これからの動物園の評価指標の一つになってくると感じる。アマゾンほしいものリストやクラウドファンディングなど民間との連携を強化しながら、動物との共存に取り組んでいるところがよい。
- ・動物園に興味がある層だけではなく、そうではない層への訴求力に課題があると感じる。経済農政局が行っているナイトタイムエコノミーなど他局の施策や、企業、民間の企画会社との連携など、アフターコロナを見据えて、集客力の向上と園の活性化に取り組んでいてもらいたい。
- ・屠体給餌という新しい取組を知った。園の動物に与える前に感染症や寄生虫の処理が必要であるなど、通常の餌より費用がかかるとのことだが、千葉市でも有害鳥獣の後処理が課題になっているので、有効活用できるよう研究してほしい。
- ・動物の豆知識を説明してくれる機能として、例えばスマホの位置情報で自動的に説明が流れる機能などを作ることができればよいのではないか。
- ・体験できる、共有できる空間があるのも面白いと考える。ゴリラの力を感覚的に体験できるなど、五感で感じることは楽しみながら学べるのではないか。
- ・モノレール動物公園駅に到着する際のアナウンスや駅での音楽について、もっと動物公園に着いたという演出を工夫してもらいたい。
- ・トイレ改修が進められているとのことなので、園内にきれいなトイレがあることを明示してほしい。また、高齢者の移動についても考慮してほしい。
- ・動物舎の命名権、物品の企業からの提供等、収支改善への工夫がなされていた。
- ・以前と比較すると動物の見せ方に工夫が感じられたが、動物科学館の外観についてはペイント等でもよいので工夫が必要なのではないか。
- ・外部から侵入してくるカラスやスズメ等への対策は必要と感じた。
- ・動物科学館が日本の中で一番古くからある施設であるとの認識がなかったので、より感慨も深まった。それゆえ、展示物の劣化や壊れて撤去せざるを得ない状況なども多く、課題として改めて認識した。
- ・樹木の伐採と剪定（大池やバードホールの外観を活かす）、動物科学館の展示室、空きスペースの活用（装飾による雰囲気づくり）等、見せ方を工夫するとともに、若い世代向けに「動物の福祉」「SDGs」などの観点でアピールするよう取り組んでほしい。
- ・展示における動物の姿をどう見せるのかという視点とともに、そのまわりの修景、風景等も臨場感を漂わせるあり方も重要と感じた。
- ・子供達にとっての動物公園であると同時に、若い人達にとっても（特に女性）魅力ある動物園であること、大人にとっても癒しの空間であることも大事と思う。
- ・ナイトサファリを検討してはどうか。